

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日 ～ 令和6年9月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日 ～ 令和6年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員全体が認識を共有できるよう、ミーティングを毎日開いている。	活動プログラムを多くの職員が参加して計画している。	シフト上ミーティングに参加できていないスタッフへの共有を丁寧にしていく。
2	手厚い体制配置で、一人一人の児童をより丁寧に見ることができている。	シフトを柔軟にしたうえで、常勤スタッフを多めに配置している。	一人一人の質の向上を図るためにも研修等にさらに力を入れていく。
3	保護者の困りごとなどを適宜聞き取り、相談している。	定期的な保護者面談の実施や、送迎時のやり取りを通して丁寧なヒアリングを心がけている。	児発管だけでなく各スタッフが保護者とのコミュニケーションを増やして信頼関係を構築していけるよう工夫していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員に対する評価制度がほしい。	個別の面談は随時行っているが、評価基準が定まっていないため、客観的な評価に繋がりにくい。	評価基準を設定の上職員に示していき、モチベーションの向上に繋がるよう配慮していく。
2	生活空間（床マットのズレや清潔感）を定期的に改善していく。	清掃のやり方などに一定のルールは設けているが、個別の対策が必要なものに関しては決まり事が特に定められていない。	マットの定期的な入れ替えや消毒・清掃等の様々な決まり事を新たに設けていく必要がある。
3			